

年度	科目名	課題領域	単位数		
2023年度	外国につながる児童生徒の教育Ⅰ	子どもの実態の把握 社会的背景の理解	1		
授業の目的	<p>1. 外国につながる児童生徒の現状と背景についての理解を深め、その実態の多面的な把握の視点を得ることを目指す。</p> <p>2. 外国につながる児童生徒の生活上・学習上の困難点を理解し、文化的多様性を尊重しながら学校生活を支える視点や支援体制について考える。</p>				
学修目標 (目標とする資質・能力)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその困難さを理解することができる。 《捉える力：ア*》 ・子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。 《捉える力：イ*》 ・認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発達や学習経験を考慮して捉えることができる。 《捉える力：エ*》 ・文化間移動や家族の状況を、グローバル化や歴史的背景、社会制度の変化等に関連付けて理解することができる。 《捉える力：カ*》 				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	9月30日	午前1 (90分)	外国につながる児童生徒を理解しよう(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式、ガイダンス ・児童生徒を受け入れる際に必要なことを考え、知識や理解を深める。 ▷B	藤本典子（教育学部 客員教授）・鹿嶋恵 (大学院教育学研究 科 特任教授)
2	9月30日	午前2 (90分)	外国につながる児童生徒を理解しよう(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化接触と文化変容について基本的な知識を得て、児童生徒のおかれた状況への理解を深める。 ▷E, D	鹿嶋恵・藤本典子
3	9月30日	午後1 (60分)	【基調講演】 外国につながる児童生徒の教育と教員養成における「豆の木モデル」	◇講師 齋藤ひろみ氏（東京学芸大学 教授）	▷A, B
4	9月30日	午後2 (120分)	【シンポジウム】 熊本における外国につながる児童生徒の教育の充実のために	◇パネリスト ・松永尚子氏（熊本県教育委員会 義務教育課 英語・日本語教育推進室長） ・田口恵子氏（熊本市立桜山中学校 校長） ・宮永直子氏（熊本市立桜山中学校 教諭 日本語指導担当） ・藤中隆久（大学院教育学研究科 教授 教職大学院専攻長） ◇ファシリテーター 山城千秋（大学院教育学研究科 教授 教育実践センター長） ◇アドバイザー 齋藤ひろみ氏（東京学芸大学 教授）	▷A, B

5	10月1日	午前1 (90分)	よりよい学びの場にするために(1)	・シンポジウムの振り返り ・外国につながる児童生徒の教育に関わる人として、自分を見つめなおし、課題を意識する。 ▷A, B, N	藤本典子・鹿嶋恵
6	10月1日	午前2 (90分)	外国につながる児童生徒にとって「日本語で学ぶ」とは	・子どもの第二言語習得のプロセスについて知識を得る。 ・日本語の言語発達と日本語での科学学習の関係性や、必要性を理解する。 ▷F	鹿嶋恵・藤本典子
7	10月1日	午後1 (90分)	外国につながる児童生徒との関わりを考えよう	・体験談や事例を元に、外国につながる児童生徒がおかれた状況への理解を深める。 ・異文化接触や心的文化変容について基本的知識を得る。▷E, D	鹿嶋恵・藤本典子、 ゲストスピーカー
8	10月1日	午後2 (90分)	よりよい学びの場にするために(2)	・学校内外における連携の重要性を理解する。 ▷L, C	藤本典子・鹿嶋恵
履修条件			教員免許の有無にかかわらず、どなたでも受講できます。		
評価の方法			授業への参加, 事後アンケート		

*ア～マの記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また▷A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、下記文献のpp.5-10を参照。

公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（<https://mo-mo-pro.com/report>）